モニタリング結果報告書
（令和７年度）

１．施設概要

施設名		神奈川県総合リハビリテーションセンター		
	所在地	厚木市七沢５１６		
	サイトＵＲＬ	https://www.kanagawa-rehab.or.jp		
	根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
	設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため（昭和48年４月）		
指定管理者名		社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間		H28.４.１ ～ R10.３.31 (2016年) ～ (2028年)	施設所管課（事務所）	県立病院課

２．総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
評価については、利用状況はＣ、利用者の満足度がＳ、収支状況Ｂがであったことから、３項目評価はＢ評価とした。 令和７年度は、前年度と同様に利用状況が目標に達しない施設が多数あった。 リハビリテーション病院については、入院、外来ともに、利用者数が減少しているものの、利用者の満足度は高く、スタッフの質の高さが証明された結果となっている。また、民間では受け入れが困難な患者を積極的に受け入れいるなど、高度専門的なリハビリテーション医療の拠点を担っている。 また、福祉施設についても、利用者目線に立ち、医療と福祉の総合力を発揮する質の高い支援機能により、引き続き計画値の達成に向けて取り組んでもらいたい。
＜各項目の詳細説明＞ ◆管理運営等の状況 前年度に引き続き、物価高騰など経営を圧迫する要素がある中、収支均衡の運営を目指したが、決算収支はマイナスとなった。(法人全体としては、収支均等を保っている。) ◆利用状況 （福祉施設）一部、利用状況が改善した施設があったものの、依然として目標に達しない施設が多数ある。 （病院）入院・外来ともに、昨年度に引き続き、利用者数が若干減少傾向にある。 ついては、リハセンターとして、Ｃ評価とした。 （Ｓ評価が１区分、Ｂ評価が３区分、Ｃ評価が６区分） ◆利用者の満足度 福祉では、外出や外食など施設外活動の充実といった利用者目線に立ったサービス提供が高評価につながっている。 また病院では、高度専門的なリハビリテーション医療の提供はもとより、（利用者満足度調査のあとに整備された）電子カルテのシステム改修により、病院内にデジタルサイネージが新設され、診療案内が分かりやすくなったことも、評価につながっていると考えられる。ついては、リハセンターとして、Ｓ評価とした。 ◆収支状況 指定管理業務内において、収支均衡になるよう自助努力に努めたものの、99.97%となったため、Ｂ評価としたが、法人全体としては、収支均衡を保っている。 ◆苦情・要望等 おおむね利用者に理解を得られるような対応がとられている。 ◆事故・不祥事等 職員による不祥事はなかったが、福祉施設において利用者間のトラブルや職員への暴力、複数利用者のコロナ感染があった。 ◆労働環境の確保に係る取組状況 経営会議等において、職員の労働状況を共有するなどした。

３．３項目評価の結果

３項目評価	利用状況 (項目６参照)	利用者の満足度 (項目７参照)	収支状況 (項目８参照)	３項目評価とは、３つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう。 Ｓ：極めて良好 Ａ：良好 Ｂ：一部改善が必要 Ｃ：抜本的な改善が必要
Ｂ	Ｃ	Ｓ	Ｂ	

４．定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現地調査等 の実施状況	実 施 頻 度	現地調査等の内容
	毎月実施	工事の進捗確認や建物の破損・改修など、建物の現況確認を行ったほか、施設の運営状況について、必要に応じて現地視察を行った。
意見交換等 の実施状況	実 施 頻 度	意見交換等の内容
	毎月実施	電子カルテ等の定例会議に加え、今年度は、神奈川県総合リハビリテーションセンターあり方検討会を実施した。あり方検討会の資料作成時には、施設の状況や現在の取組等について、意見交換を行った。
随時ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞにおける 指導・改善勧告等の 有無	有 ・ (無)	指導・改善勧告等の内容

５．管理運営等の状況

〔　指定管理業務　〕

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるｺﾒﾝﾄ
1　重点方針 (1)　高度専門性の発揮	リハビリテーションセンターの指定管理者として、重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供とリハビリテーションにかかわる研究開発のため、優秀な人材の確保と職員の資質の向上に取り組んだ。 福祉施設においては、「当事者目線の障がい福祉の実現」に向けた神奈川県の取組のもと、強度行動障害者を対象とした意思決定支援を全県に広げる先駆的施設の一つとして、「意思決定支援実践研修事業」の取組を実施する等、積極的に県の事業への協力を行った。 病院においては、「かながわリハビリロボットクリニック」の取組として、筋電義手をはじめとするロボット技術を活用したリハビリ医療での治療・訓練効果の評価検証を行っており、令和７年度は、21名の患者に訓練を行った。また、ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象にHAL®、ExoAtletを活用した歩行訓練を行った。	事業計画に基づき、実施された。 福祉については、民間では対応困難な利用者を受け入れなど、県の福祉事業に積極的に取り組んでいる。 また、筋電義手の普及やリハビリテーション工学といった先進的な取組により、治療や訓練の効率化が図れた。
(2)　収益の確保、効率化	令和７年度は、各施設において感染症等の防止策を講じるとともに、物価高騰等の状況を注視しながら、事業運営に取り組み利用率の向上や収入単価の増加に努めた。 一方、支出については、人件費、物件費の執行が年間計画を大幅に上回り、年間を通した収支は、大変厳しい結果となった。	給与改定等の処遇改善により、想定していた退職者数を下回り、人件費の支出が大きくなってしまった。 ただ、現在の医療人材不足を考えると、人材確保がしっかりできているという評価ができる。次年度以降は、確保した人材を活用した手厚いサービスの提供による収入増加の検討が必要である。

(3)　安全管理対策の強化	患者や利用者の安全確保を目的に、病院では、地震を想定した防災訓練と火災を想定した防災訓練を実施、福祉施設では、毎月、防災訓練を実施するとともに、外部からの侵入者を想定した地元警察による防犯研修を行い、安全管理への意識強化を図った。	様々なケースの訓練や研修を行うことで、安全管理の意識向上を図ることができた。
(4)　内部管理体制の強化	経営会議や安全衛生委員会において、職員の年休取得状況や時間外労働時間の状況を共有するとともに、各所属の勤務実態が労務関連の法改正に対応できているかを確認した。 その他、内部管理体制の基本方針に基づくコンプライアンスの強化策として、通報制度の要綱を策定し、事業団の内外から通報・相談できる窓口を設置する等の体制整備を行った。 こうした取組により、社会福祉法人に求められる経営組織のガバナンスの強化及び事業運営の透明性の向上等に努めた。	随時、労働環境の健全化を図るための内部管理（公益内部通報及び外部通報等）やコンプライアンス強化のための体制整備を行うことで、事業運営の透明性の向上に取り組んでいる。
２　事業計画 (1)　病院機能の充実 (ｱ)　幅広い診療体制の確立	常勤医師の確保が困難である中、診療体制を維持するため、特に内科医や褥瘡の外科的治療ができる医師、耳鼻科医の採用活動に注力して取り組んだが、採用に至らなかった。	令和８年度の期中には、褥瘡の外科的治療ができる形成外科医の雇用が予定されている。 医療人材の確保が難しい状況においては、評価できる。 引き続き、解決策の検討が必要である。
(ｲ)　リハビリテーション機能の充実	一般病棟では、病院機能評価の基準である１患者当り１日４単位以上、回復期病棟においては１日６単位以上の訓練を目標とし、充実したリハビリ訓練の提供に努めた。 令和７年度は、昨年度より改善し一般病棟3.32単位（Ｒ６：2.93単位）、回復病棟5.63単位（Ｒ６：4.56単位）の実績となった。 高度なリハビリ訓練の提供を行い患者の社会復帰を実現する施設として84%の在宅復帰率であった。	高度専門的なリハビリテーション医療の実施機能を持ち合わせている施設として、今後も民間では対応が困難な患者を積極的に受け入れていくが必要となる。 在宅復帰率を見る限り、質の高いサービスが提供されている。

(ｳ)　地域との連携強化	紹介受診重点医療機関として、外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図った。 地域連携室を主体に周辺のクリニックに対し、当院の診療内容の周知と認知度の向上を狙いとした広報活動を行った。 また、大学病院との連携会議の開催、急性期病院のＳＷの見学会を実施した。 入院に関する相談は1,911件であり、そのうち1,592件（83.3%）が入院申込みで、1,146件の入院につながった。	令和７年１月から紹介受診重点医療機関となり、より一層、診療内容の周知に努めた。 また、入院患者の約９割が県内、そのうち４割強を県央地域で占めている。
(ｴ)　患者の視点に立った病院経営	利用者からの要望や苦情については、総合相談室にて対応を行い、患者支援（サポート）会議を通じ回答を紙面・口頭・掲示などにより行った。 患者満足度調査を実施したところ、５点満点で、入院患者満足度3.7点、外来患者満足度3.7点と目標値（3.5点）を達成することができた。	日々の業務の成果として、入院患者満足度、外来患者満足度ともに目標達成に至った。
(ｵ)　効率的・効果的な業務運営と経営改善	看護業務等ICT導入支援の補助金を活用し、看護師の業務効率化を目的としたスポットチェックシステムの導入を行った。これにより、バイタル測定時間の短縮ができ、看護業務の効率化が図れた。	改修後の電子カルテシステムが本格稼働し、病院内のIT化も進み、業務の効率化のみならず、利用者の満足度にも繋がると考えている。
(ｶ)　調査、研究・開発事業	医学的・工学的・社会福祉学的領域において、調査・研究・開発を行い、医療・福祉の向上に取り組んだ。 また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究・受託研究を実施した。	

	【筋電義手事業】 　筋電義手の処方・訓練を「未来筋電義手センター」として、乳幼児から学童、成人まで実施している。年齢や習熟度に応じた訓練を実施し、特に乳幼児については、義手に慣れることから始め、欠損肢のイメージができるように装飾用義手、筋電義手と段階を踏んだ訓練を行った。患者の日常生活や職場、学校、幼稚園や保育園での課題やニーズに合わせ、必要な操作ができるよう訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。令和７年度は21名の患者に対して訓練を行い、うち先天性の小児患者１名、成人患者１名の計２名が公費認定を受けた。 　また、令和８年１月に、当事者とその家族を集めた家族会を開催した。「MIRAI ラボ」と称し、先輩当事者の話や同じ手を持つ子どもたち同士が一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに、当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。 【障害者スポーツへの取組】 　神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」という。）の取組への協力を行った。 　障害者スポーツは障害者の社会参加、身体機能維持、健康増進に効果があるとともに、共生社会の実現という目的がある。障害者スポーツの普及に向け、地域在住の方を対象に計４回体験会を行った。（うち１回は雨天中止）（参加者数254人）。また、厚木市の後援を得るなど、体験会を通じ幅広い世代に障害者スポーツの普及活動を行った。	「筋電義手バンク」基金の活用等により、訓練希望者に対して、十分な対応ができている。 　引き続き、希望するすべての人（特に、こどもや若者）が、筋電義手を利用し、将来の夢や可能性を広げることができる社会の実現を目指していきたい。 　定期的に、リハ事業団・当課・スポーツ課による「パラスポーツ推進連会」を実施している。 　現在、３者が連携して取り組める事業等について、アイディア出し等を行っており、引き続き、検討していく必要がある。

(2)　福祉機能の充実 ア　七沢学園 (ｱ)　施設機能の充実	福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠如多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和７年度の利用者数は、入所が８名、退所が７名、１日平均入所者数は25.3人で、１日平均入所率は84.4％であった。 また、虐待等の措置入所のほか、１か月～６か月の施設入所を通して、ＡＤＬ（日常生活動作）の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込み「集中療育」を実施した。令和７年度の利用者実人数は４名であった。 障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が７名、退所が４名、１日平均入所者数は23.1人で、１日平均入所率は76.9％であった。 日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、１日平均利用者数は17.3人、１日平均利用率は90.9％であった。 自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、１日平均利用者数は8.5人、１日平均利用率は50.1％であった。	当施設は、民間では対応が困難な利用者を受け入れており、利用者目線に立って、医療と福祉の総合力を発揮する質の高いサービスを提供している。 児童については、児童相談所等からの措置入所という難しいケースが多いなか、多職種連携により適切な対応を行っている。 また、レスパイト（短期入所）へのニーズは高いことから、引き続き、利用者の満足度向上のためにも、適切な対応ができるよう検討していくべきと考えている。 ただ、成人（訓練）については、利用率の低下が顕著となっており、減少の原因解明と対応策について、早急に検討していかなければならない事項と考えている。

(ｲ)　地域との連携強化	地域福祉支援事業では、電話や来園による相談を延べ434人、知的障害児通所機関巡回指導を延べ287人実施した。 また、児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業は児童を延べ423人、成人を延べ437人を受け入れた。その他に、児童施設は、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数45人、延べ人数195人であった。 なお、地域の知的障害者施設やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所者のうち、生活介護の受給者証を所持する者を対象として、日中活動支援（通所訓練）を提供し、実人数１人、延べ人数157人を受け入れた。	児童については、退所先との支援会議にて、定着具合等について情報共有を図っている。また、本人だけではなく、退所先からの相談にも対応しており、円滑な地域連携が図れている。 成人（介護）については、家族の高齢化に伴い、地域移行が難しいケースが多く、大きな課題となっている。地域移行に向けて必要な支援について、利用者や家族の意向も確認しながら、検討する必要がある。
(ｳ)　利用者の視点に立った施設運営	第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者は月２回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため、苦情解決連絡会を年２回実施した。利用者満足度調査の結果は、目標値3.2点に対して、実績3.5点となり、目標を達成することができた。	現在の取組が、利用者満足度に結びついているところは、評価できる。 一方で、不祥事事案等については、引き続き、改善計画に則り、再発防止に努めるよう指導する。
(ｴ)　効率的・効果的な業務運営と経営改善	七沢学園児童の家庭復帰率は、退所者７名のうち３名が家庭復帰をすることができた。 強度行動障害児受入者数は延べ306人で、集中療育の利用者実人数は４人であった。 七沢学園成人については、生活訓練事業において、地域移行を着実に支援することができ、家庭復帰率の目標を達成することができた。強度行動障害者受入者数は延べ2,190人で、医療重度受入者数は延べ1,460人であった。	地域移行及び家庭復帰率の目標達成は評価するところであるが、一部の利用者の長期化が課題となっている。

イ　七沢療育園 (ｱ)　施設機能の充実	重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に治療や健康管理などの医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。 主治医である小児科医師が中心となり、他診療科医師の協力を得ながら看護師とともに日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。令和７年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は長期14人、短期33人で延べ5,447人であった。	地域移行（退所するケース）がほとんどない状況であり、利用者のほとんどは、死亡退所となっている。 要因として、家庭での医療的ケアが困難であること、家族の高齢化、地域での受け皿の不足などが挙げられる。 当施設にとって、最大の課題と認識している。
(ｲ)　地域への支援と連携強化	在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業は１回、延べ８人に対して実施した。 短期入所事業は、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数236人、延べ1,192人受け入れた。	短期入所（レスパイト）の目標達成は、評価するところである。 ただ、地域移行に向けて必要な支援について、利用者や家族の意向も確認しながら、今後検討していく必要がある。
(ｳ)　利用者の視点に立った施設運営	コロナウイルス感染防止のための面会制限は引き続き行われてきたが、７月・10月・12月・３月の行事の際にご家族、後見人の来園を仰ぎ、その際に第三者委員の来園を依頼した。７月・10月・12月に第三者委員の出席があり、ご家族、後見人と情報交換を行っていただいた。それ以外の月は電話にて苦情や相談等の連絡があったか否かの確認を行った。 施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年２回実施した。 利用者満足度調査の結果は、目標値3.7点に対して、実績3.7点となり、目標を達成することができた。	利用者の目線に立ったサービスを提供できていることが、利用者満足度に繋がっていると考えられ、評価するところである。

(ｴ)　効率的・効果的な業務運営と経営改善	令和７年度の入所事業について、今年度は長期利用者が１名死亡したため、年度途中に１名受け入れた。医療型障害児入所は０人、療養介護は１人で延べ46人を受け入れた。短期入所利用者とあわせると入所は223人、退所は222人であった。また、１日平均入所者数は38.0人、１日平均入所率は95.1％で目標（97％）に届かなかった。	１日平均入所率は、目標に未達という結果だが、数値は95.1％と高い水準を保っており、評価するところである。 今後は、地域移行に向けた検討・取組を進めながら、利用率の目標達成に向けて、取り組んでいく必要がある。
ウ　七沢自立支援ホーム (ｱ)　施設機能の充実	七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。 肢体不自由者については、神奈川リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。 令和７年度の家庭復帰率は、61.9％となった。	福祉施設のなかでは、リハ病院との親和性が高い施設であることから、より一層リハ病院との連携を図っていくことが重要である。
(ｲ)　地域との連携強化	地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施した。実人数11人、延べ323人に対し、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては、訪問訓練を実施し、令和７年度は３件であった。 また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数65人、延べ316人の受入れを行った。 その他受託評価事業について、肢体不自由部門は、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハビリテーション病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、視覚障害部門は、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児者を対象に神奈川リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行っている。受託評価の利用者数は、肢体部門、視覚部門合わせて実人数14人、延べ60人であった	短期入所（レスパイト）等のニーズが増加傾向であるなか、更なる地域連携が求められる。 また、施設ではSNSを利用し広報活動を行っており、利用者の確保に尽力しているところは、評価できる。 今後は、更なる利用者の確保に向けた取組を行う必要がある。

(ｳ)　利用者の視点に立った施設運営	利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員による、月１回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため、苦情解決連絡会を年２回実施した。 利用者満足度調査の結果は、目標値3.1点に対して、実績3.6点となり、目標を達成することができた。	現在の取組が、利用者満足度に結びついているところは、評価できる。
(ｴ)　効率的・効果的な業務運営と経営改善	令和７年度の肢体不自由者の施設入所支援の利用者数は、入所が20名、退所が21名、１日平均入所者数20.0人で、１日平均入所率は50.1％であった。また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は、１日平均利用者数が19.8人、１日平均利用率は47.1％であった。 一方、中途視覚障害者の施設入所支援の利用者数は、入所が７名、退所が８名、１日平均入所者数4.5人で、１日平均入所率は45.1％であった。 また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は、１日平均利用者数が5.7人、１日平均利用率は31.5％であった。	利用率の低下が著しいので、利用者の確保を含め、今後の対応を検討していく必要がある。
(3)　地域へのリハビリテーション支援事業	地域の障害者・高齢者等が適切なリハビリテーションサービスを円滑に受けられるよう、サービス提供事業者等への支援業務を全県的な立場で行った。 地域支援室では、指定管理事業であるリハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行った。 県委託事業の神奈川県リハビリテーション支援センター事業に関しては、リハビリテーション専門相談、リハビリテーション情報提供、地域連携構築推進事業を行った。 また、高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業(国事業)」の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行った。	引き続き、人材の確保・育成、地域連携の強化、早期の地域移行を目指していく必要がある。

	リハビリテーション専門研修は、医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和７年度は12コースの研修を全て対面形式で実施した。 延べ受講者数は外部受講者336名、事業団職員51名で総受講者延べ数は387名であった。研修後のアンケート結果は、3.9（4点満点）であった。 地域リハビリテーション支援関連活動として、次の活動を行った。 ア　「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」 政令市のリハセンターとの連絡会をオンラインで実施した。（２回） イ　地域医療介護連携会議等への参加 「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）への参加（13回） ウ　保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力（13回） エ　支援学校の福祉用具体験会の企画・運営（２回） オ　全国地域リハビリテーション事業連絡協議会の参加（１回）	
	神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）として、リハビリテーション専門相談は、対応件数185件、そのうち新規相談件数は109件、支援者と協働して現場へ訪問した件数は32件であった。 リハ情報提供として、年４回「支援センターだより」を県内240機関へ配布した。 支援センターのホームページへのアクセス総数は45,190件であった。 地域連携構築推進事業では、足柄上地区と大磯町・二宮町で計４回の研修を行った。 高次脳機能障害支援普及事業として、次の活動を行った。 ア 相談支援 １）個別支援（179件） ２）巡回相談事業 （７か所、延べ45回） イ 普及・啓発 １）県民を対象とした研修会の開催（対面１回）	

	２）神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催（対面１回） ウ 研修関係事業 １）研修会の開催（対面４回） ２）県内研修会への講師派遣（10回） ３）事例検討会（５回） ４）ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会（２回） エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議（２回） オ高次脳機能障害養成研修 基礎研修（e―ラーニング）と実践研修（対面）（２回） カ その他の関連事業 １）連携構築 ①政令市との連携（２回） ②自立支援協議会との連携（11回） ③当事者団体との連携（センター内に協働事業室を設置）	

〔 参考：自主事業 〕

事業計画の主な内容	実施状況等
○ 筋電義手の購入・修理・管理 ・新たな筋電義手等の購入、修理、成長や訓練終了に伴って返却された筋電義手等の管理 ○ 寄附金の管理・執行 ・神奈川県がふるさと納税等で集めた寄付金を、他の会計と区分し管理 ・年度末に残った資金の翌年度への繰越 ・筋電義手等の購入費や、修理費の執行 ※自主事業は筋電義手バンク事業の運営のみ。	「未来筋電義手センター」において筋電義手の処方・訓練を実施しているが、訓練用の義手については１本あたり200万円以上かかるものの、健康保険等の公費負担がなく病院で用意する必要がある。 そこで、訓練用義手を確保するための基金として「筋電義手バンク」を県が設立し、寄付を募りその基金を活用し訓練用筋電義手を購入、訓練にあててている。 令和７年度の寄付額は県に寄付された約2,250万円と病院への直接寄付の約110万円の合わせて約2,360万円であった。患者訓練用として1,270万円の義手の部材購入を行った。 令和７年度は21名の患者に対して訓練を行い、必要な義手の提供を行った。

６．利用状況

（１）七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
B	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	9,436	9,486	9,247
対前年度比		100.5%	97.5%
目　標　値	10,760	10,731	10,731
目標達成率	87.7%	88.4%	86.2%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
令和６年度末に５名退所した。令和７年度３名の入所者を受入れたが、退所した人数を埋めきれずスタートした。その後、新たな入所に制限がかかったこともあり、目標達成に至らなかった。

（２）七沢学園（児童・地域支援（短期入所））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	269	347	423
対前年度比		129.0%	121.9%
目　標　値	720	720	720
目標達成率	37.4%	48.2%	58.8%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
短期入所の相談は来ており、待機者もいる状態である。今後とも目標に向けて努力していく。

（３）七沢学園（成人・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	8,947	9,584	8,422
対前年度比		107.1%	87.9%
目　標　値	10,222	10,194	10,194
目標達成率	87.5%	94.0%	82.6%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
年度途中の入所がなかったため、目標を達成できなかった。

（４）七沢学園（成人・地域支援（短期入所））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	355	491	437
対前年度比		138.3%	89.0%
目　標　値	1,380	1,380	1,380
目標達成率	25.7%	35.6%	31.7%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
生活介護男子ユニットでコロナ時に在宅困難となった行動障害を持つ利用者を受入れたことにより、行動障害ユニットの短期枠が１床となった。
そのため、行動障害者の受入れの目標を達成できなかった。

（５）七沢療育園（入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110％以上　Ａ：100％以上～110％未満　Ｂ：85％以上～100％未満　Ｃ：85％未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
B	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	12,399	12,610	12,693
対前年度比		101.7%	100.7%
目　標　値	13,845	13,808	13,808
目標達成率	89.6%	91.3%	91.9%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
令和７年度、長期利用者１名を受け入れた。
療養介護施設では、長期利用者の退所と入所の手続きが煩雑なため、
新しい入所者が決まってから入所されるまでには数ヶ月かかり、目標達成には至らなかった。

（６）七沢療育園（地域支援（短期入所））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110％以上　Ａ：100％以上～110％未満　Ｂ：85％以上～100％未満　Ｃ：85％未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
S	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	1,244	976	1,192
対前年度比		78.5%	122.1%
目　標　値	700	700	700
目標達成率	177.7%	139.4%	170.3%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
現在、１床プラス空床で運用している。利用者からも高いニーズがあるので、
今後も、積極的に対応していく。

（７）七沢自立支援ホーム（入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110％以上　Ａ：100％以上～110％未満　Ｂ：85％以上～100％未満　Ｃ：85％未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	11,832	11,763	8,959
対前年度比		99.4%	76.2%
目　標　値	17,220	17,173	17,173
目標達成率	68.7%	68.5%	52.2%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
肢体部門は、神奈川リハ病院からの利用は一定数あるが、外部病院からの相談は減っている。
視覚部門ともに、外部病院や福祉事務所、相談機関への周知不足や、介護保険によるサービスをはじめ、グループホームなど地域の受け皿が充実していることが利用低下の要因でもある。

（８）七沢自立支援ホーム（地域支援（短期入所））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110％以上　Ａ：100％以上～110％未満　Ｂ：85％以上～100％未満　Ｃ：85％未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	142	215	316
対前年度比		151.4%	147.0%
目　標　値	1,297	1,297	1,297
目標達成率	10.9%	16.6%	24.4%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
感染症対応解除以降、利用者数は回復してきているものの、それまで定期的に利用されていた方が65才となり、介護保険サービスの利用に切り替えたり、グループホーム等へ移行された方もおり、目標値には届いていない。

（９）神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
B	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	84,756	83,071	80,169
対前年度比		98.0%	96.5%
目　標　値	92,232	91,980	91,980
目標達成率	91.9%	90.3%	87.2%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
入院患者を多く受け入れていた医師の退職に伴い、患者数が減少した。

（１０）神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～100%未満　Ｃ：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性自立支援施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和７年度
利用者数※	49,439	47,806	47,235
対前年度比		96.7%	98.8%
目　標　値	72,900	72,900	72,900
目標達成率	67.8%	65.6%	64.8%

目標値の設定根拠：　指定管理者申請時に策定した事業団経営計画
令和７年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）：　年間延べ利用者数を集計した

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備 考＞
医療機関の役割分担により、令和７年１月、紹介受診重点医療機関になったことが減少の原因のひとつとして考えられる。

７．利用者の満足度

（１）七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間： 令和７年９月22日～10月10日

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象等

実施した調査の配布方法　個別配布、聞き取り　回収数／配布数　28　／　28　＝　100.0%

配布(サンプル)対象　利用者本人

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	18	7	2	1	28	(満足) 利用者さんの声を基に、Wi-Fi環境が整備され、インターネットを利用した余暇提供が可能となった。整備後、余暇利用だけでなく、生活学習場面においても活用の幅が広がっている。 (不満) 利用者間のトラブル、粗暴行為による不安感が大きいと思われる。精神的に安定せず入院治療を必要とされる方や、児童では警察が介入する場面もあり、利用者間の緊張は解消されていない状態である。
回答率	64.3%	25.0%	7.1%	3.6%		
前年度の回答数	24	7	2	1	34	
前年度回答率	70.6%	20.6%	5.9%	2.9%		
回答率の対前年度比	91%	121%	121%	124%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
意思決定支援の試みで、職員が利用者の希望を聞き、外出や外食など施設外活動の充実が満足度を高める要因となった。

（２）七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間： 令和７年10月１日～10月31日

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　職員の対応状況、施設のルール、行事・活動・食事　等

実施した調査の配布方法　郵送　回収数／配布数　31　／　42　＝　73.8%

配布(サンプル)対象　長期利用者の家族（保護者等）

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	23	6	1	1	31	（満足） 面会等で伺った際には、お忙しい中にも関わらず丁寧な対応をしていただいた。 （不満） 面会時間が短い。 11時～昼の食事を食べさせる時間を与えて欲しい。
回答率	74.2%	19.4%	3.2%	3.2%		
前年度の回答数	27	3	1	0	31	
前年度回答率	87.1%	9.7%	3.2%			
回答率の対前年度比	85%	200%	100%			

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
面会対応に対する要望が多い。他施設ではコロナ対応が緩くなっているので、七沢療育園も対応を検討していく。

（３）七沢自立支援ホーム

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間： 令和７年10月６日～10月10日

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　施設のルール、集団生活、行事、施設設備、職員の対応状況　等

実施した調査の配布方法　個別配布、聞き取り　回収数／配布数　26　／　27　＝　96.3%

配布(サンプル)対象　利用者本人

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	16	8	1	1	26	(満足) 要望を聞いていただいており、楽しく過ごしている。 (不満) 隣りの部屋の人が冷房をつけると、こっちの部屋が暖房を付けられなくなる。
回答率	61.5%	30.8%	3.8%	3.8%		
前年度の回答数	23	7	2	1	33	
前年度回答率	69.7%	21.2%	6.1%	3.0%		
回答率の対前年度比	88%	145%	63%	127%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
個別支援会議に利用者本人が出席することにより、職員をはじめ各セラピストとの交流機会が一層増したことが、満足度の向上につながった。

（4）神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上　A：70%以上～90%未満　B：50%以上～70%未満　C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間： 令和７年９月２日～11月28日

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　病院全般の満足度、職員の対応

実施した調査の配布方法　退院会計窓口で配布　回収数／配布数　151　／　281　＝　53.7%

配布(サンプル)対象　入院患者

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	110	14	1	1	126	（満足） 充実したリハビリ、スタッフへの感謝 （不満） Wi-Fiが無い
回答率	87.3%	11.1%	0.8%	0.8%		
前年度の回答数	118	13	2	0	133	
前年度回答率	88.7%	9.8%	1.5%			
回答率の対前年度比	98%	114%	53%			

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
障害特性を熟知した医師及び看護師等医療従事者が対応することで安心感を得られている。

（５）神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間： 令和７年９月16日～９月30日

〔 サービス内容の総合的評価 〕

質問内容　病院全般の満足度、職員の対応　等

実施した調査の配布方法　外来来院者に配布　回収数／配布数　570　／　698　＝　81.7%

配布(サンプル)対象　外来患者

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	371	99	3	2	475	（満足） 医師への信頼感、スタッフへの感謝 （不満） 待ち時間の長さ、コンビニの品揃え
回答率	78.1%	20.8%	0.6%	0.4%		
前年度の回答数	406	128	1	0	535	
前年度回答率	75.9%	23.9%	0.2%			
回答率の対前年度比	103%	87%	300%			

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

＜備 考＞
障害特性を熟知した医師及び看護師等医療従事者が対応することで安心感を得られている。

８．収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が０円の施設≫ 収入合計／支出合計の比率が、Ｓ（優良）：105％以上　Ａ（良好）：100％～105％未満 Ｂ（概ね計画どおりの収支状況である）：85％～100％未満　Ｃ（収支比率に15％を超えるマイナスが生じている）：85％未満
Ｂ	

〔　指定管理業務　〕

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	2,644,899	4,423,410	35,644	備考のとおり	7,103,953	7,103,953	0	
	決算	2,631,906	4,508,186	220,419	備考のとおり	7,360,511	7,360,510	1	100.00%
前年度	当初予算	2,643,727	4,418,779	37,937	備考のとおり	7,100,443	7,100,443	0	
	決算	2,643,590	4,677,187	138,424	備考のとおり	7,459,201	7,459,201	0	100.00%
令和７年度	当初予算	2,666,072	4,567,304	38,424	備考のとおり	7,271,800	7,271,800	0	
	決算	2,676,419	4,692,524	358,469	備考のとおり	7,727,412	7,729,600	-2,188	99.97%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

令和７年度 /　　前年度 /　　前々年度 /

＜備 考＞
前々年度／受取利息配当金収入：（当初）676　（決算）580　その他の収入：（当初）14,992　　（決算）138,914　長期貸付金回収収入：（当初）5,180　（決算）9,413　こども園使用料・給食費・補助金収入：（当初）14,796　（決算）6,262　コロナ等補助金収入：（当初）0　（決算）65,252

前年度／受取利息配当金収入：（当初）290　（決算）2,487　その他の収入：（当初）16,806　　（決算）108,111　長期貸付金回収収入：（当初）6,045　（決算）7,982　こども園使用料・給食費・補助金収入：（当初）14,796　（決算）10,518　物価高騰対策支援金等収入：（当初）0　（決算）9,326
※「収支の状況」における収支差額は、端数切りしている関係で、０円となっている。
端数調整前の収支差額は３５円である。

令和７年度／受取利息配当金収入：（当初）659　（決算）7,820　その他の収入：（当初）16,940　（決算）20,362　長期貸付金回収収入：（当初）6,029　（決算）3,260　こども園使用料・給食費・補助金収入：（当初）14,796　（決算）6,884　物価高騰対策支援金等収入：（当初）0　　（決算）104,790　積立資産取崩収入：（当初）0　（決算）215,353
※２月補正額（指定管理料）：13,509千円は含まれている。
※返還額：3,162千円あり

９．苦情・要望等

（１）七沢学園（児童・成人）　　□ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0　件		
	要望	0　件		
職員対応	苦情	0　件		
	要望	0　件		
事業内容	苦情	0　件	相談者は第三者委員とのやり取りを楽しみに来室される方が多い。自身の趣味の話や学校、ユニット内での出来事などの話をする。（相談）	委員は、相談者の話を傾聴し、助言やアドバイスを行っている。重大な案件については、委員から職員へ伝え適切な対応を行っている。（相談）
	相談	17　件		
その他	苦情	0　件		
	要望	0　件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

（２）七沢療育園　　□ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	4　件	電話でモニタリングの結果を家族（母）に報告する際、事前に送付した資料（個別支援計画）に決裁印が無く、また１部しか送付されていない。昨年とやり方が変わったのであれば、事前に説明して欲しい。（苦情）	今回送付したのは説明用であり、今後修正点などが出たら、修正して決裁を取り送付する旨説明した。やり方が昨年と変更になった事を謝罪した。（苦情）
	要望	0　件		
職員対応	苦情	0　件	第三者委員から、入院の際に非常に親身になって相談にのっていただきました。（感謝）	第三者委員へ感謝の意を伝えた。（感謝）
	感謝	1　件		
事業内容	苦情	0　件		
	要望	0　件		
その他	苦情	0　件		
	要望	0　件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

（３）七沢自立支援ホーム　　□ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0　件		
	要望	0　件		
職員対応	苦情	3　件	自宅新築時に設置したトイレ便器が現在訓練で使用している生活動作と合わず、自分で出来ることが限定してしまう。自宅便器は、神リハ病院へ入院中にＯＴに意見を求めながら選んだものである。（苦情） 職員のマスクが下がっていて鼻がはみ出している人がいる。介助時など気になる。（要望）	神リハ病院の患者相談窓口の室長が話を聞き対応した。（苦情） 職員会議や業務引継ぎ等で職員へ周知を行った。（要望）
	要望	2　件		
事業内容	苦情	0　件	退所後に脊髄損傷の人が利用するようなグループホームがあるか。社協の送迎サービスの利用方法について相談があった。（相談）	委員からグループホームは知的障害や精神障害の人が利用するものが多いこと。社協の送迎は市町村にもよるが、事前に登録する場合が多く、予約となっている所が多いと説明を行った。（相談）
	相談	13　件		
	要望	0　件		
その他	苦情	0　件		
	要望	0　件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

（4）神奈川リハビリテーション病院　　□ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	1 件	・外来等での食事場所を確保してほしい。 ・Wi-Fiを導入してほしい。	・食事スペースの座席を増やした。 ・Wi-Fiは順次導入する予定となっている。
	要望	24 件		
	感謝	0 件		
	その他	0 件		
職員対応	苦情	15 件	・会計時間に時間がかかる。 ・職員によって言うことが異なるので、対応を統一してほしい。	・自動精算機や番号表示の改善に取り組んでいる。 ・スタッフ間の認識の統一を図り、患者・ご家族が不利益を被ることがないように努めている。
	要望	7 件		
	感謝	6 件		
	その他	2 件		
事業内容	苦情	6 件	・面会時間を延長してほしい。 ・外科の先生を増やしてほしい。	・感染対策状況等を踏まえて検討している。 ・医師の採用に取り組んでいるが、難しい状況である。
	要望	24 件		
	感謝	1 件		
	その他	1 件		
その他	苦情	0 件		
	その他	0 件		
	感謝	0 件		
	その他	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等　　□　該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
令和７年 ６月14日	① 七沢学園（粗暴行為）他利用者に掴みかかる 。他利用者の首と腕を強く掴んでおり、職員２名介入するも中々離さない。職員が何とか離すも、他利用者が居室へ避難するのを追い、居室に入り込み再度他利用者に掴みかかる。職員が引き離したところ、居室ドアを中から施錠。その後、居室ドアを外から蹴りつけた。本人へ対応していた支援員にも首・腕・手の掴みかかりや体を押す行為があった。怒りが中々落ち着かず、30分ほど不穏な状態が続いたが、クールダウン後、面談を行う。 ② ６月14日 県障害サービス課・千葉県鎌ケ谷市障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ 対応した職員は首と右手を負傷しており、６月16日受診し打撲の診断 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 ８月３日	① 七沢学園（自殺企図）ナースコールが鳴る。自傷の可能性があるので入室する。ドアに衣類の細い紐をかけ首に巻いている。紐はすぐ外れる。紐が外れた瞬間に食堂へ飛び出し、椅子を投げ未遂、テーブルに飛び乗り未遂。いずれも支援員が止める。23:30バイタルチェック異常なし。 ② ８月３日 県障害サービス課・松田町障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ グループホームへの移行準備を開始した。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 ８月６日	① 七沢学園（自殺企図）居室ドアの取っ手にズボンの紐を掛け、そこに首を入れ、直後にコールを押して職員を呼んだ。 ② ８月６日 県障害サービス課・松田町障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ グループホームへの移行準備を開始した。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 ８月21日	① 七沢学園（自殺企図）15:00頃、利用者が他の利用者に「居室で首を吊る」とメッセージを送信。職員が居室を開けると、取っ手にリボンのような紐を巻き首に掛けていたため、急いで紐を外した。職員対応中に居室を飛び出し、ユニット入口へ移動し食事ワゴンを突き飛ばし、入口ドアとロッカーを蹴る。その後、夕食配膳時にも首吊りしようとする行為が見られた。 ② ８月21日 県障害サービス課・松田町障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ ８月22日 県立精神医療センターへ医療保護入院となった。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 ８月24日	① 七沢学園（感染症）短期入所している利用者が、37.6度の発熱と鼻水のため帰宅。その後コロナ陰性だったとのご家族から連絡があった。その後、ユニットで９名が発熱し、コロナ陽性となった。 ② ８月24日 厚木保健福祉事務所・県障害サービス課・厚木市障害福祉課 ③ 利用者、職員計９名感染したが、重症化したものはいなかった。 その後感染拡大はせず、終息に向かった。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし

令和７年 ９月13日	① 七沢学園（骨折）利用者がふざけて他の利用者の右足すね辺りを蹴った。蹴られて右足が痛かったようで、安全靴で足を蹴られたことの申出があった。 ② ９月16日 県障害サービス課・茅ヶ崎市障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ ９月17日 整形外科受診。骨折の診断。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 ９月23日	① 七沢学園（飲酒）本厚木へ単独で外出し、合流した女性友人と飲酒をした。友人が持参した缶のカルピスサワーを1本飲んだと、支援員に本人から申出があった。 ② ９月24日 県障害サービス課・愛川町障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ ９月24日 支援員より母親へ連絡。直接本人へ注意してもらった。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 10月31日	① 七沢学園（粗暴行為）来週からの実習について、提出物の助言をするも布団に潜って黙ってしまった。言葉で伝えて欲しいと促したところ、突然職員の首をヘッドロックのように締めて頭突きもしてきた。顔面に殴りかかってくるため、ベッドの方に倒れこんだ。その後も顔を中心に殴ってきたため、職員も振り払った際に、どこかの部分が本人の右頬辺りに当たった様子。 ② 10月31日 県障害サービス課・千葉県鎌ケ谷市障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ 対応した職員は右頬あたりに擦過傷と左額にも腫れができた。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 11月２日	① 七沢学園（粗暴行為）利用者同士が話をしていたが、一方が相手を避けるように居室へ入ったことで、トラブルに発展した。一旦は職員が介入し、気持ちを切り替えられたが、40分後に同様の事をし始めた。大声で「死ね」と言いながら、何度もドアを蹴っていた。その内に相手も激昂してしまい、居室で大きな音がした後に「殺してやる」と言いながら出てきて、叩き合いになった。直ぐに職員２名が両者を分けた。一方は直ぐに落ち着いたが、相手は向かって行こうとするため、職員２名でユニットの外へ移動させた。その際、職員へも頭突きがあった。その後も壁に自分の頭を打ち付ける、腕を噛むなど興奮が収まらないため、16:22 110番通報した。他ユニットから男性職員の応援を呼び、16:47から男性職員４名でユニット前の廊下でホールディングをした。16:55に警察官２名が到着。17:15にようやく脱力し、やり取りができるようになったため、ホールディングを解除、職員の薦めで頓服薬を服用した。17:30 警察官は落ち着いた事を確認し、退席した。 ② 11月2日 県障害サービス課・厚木児童相談所・厚木市障害福祉課 ③ 11月4日 神リハ整形受診。11月５日愛光病院精神科受診 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和７年 11月14日	①七沢療育園（死亡） 昭和48年に入所し、最重度の知的障害と重度の肢体不自由を合併した重症心身障害者であり、日常生活は全介助である。 令和７年10月に急激な血圧低下が見られ昇圧剤を使用した治療を実施した。その後、嘔吐、血圧の低下があり、昇圧剤の投与実施するも反応見られず、死亡を確認した。死因：尿路感染に伴う肺血症性ショック ② 11月14日 県障害サービス課・横須賀市障害サービス課・厚木市障害福祉課 ③ 11月14日 死亡確認 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし

令和７年 12月２日	① 七沢学園（粗暴行為）突然、サッカー大会に出たいとの申し出があったが、普段から練習に参加している人でメンバーを絞っていくことを説明した。それに納得できなかったのか、勤務室のドアをドンドンと強く叩く。職員がドアを開けると、その職員を体で押し込むように勤務室に入り込む。業務で使用しているノートパソコンが乗ったデスクをめがけて突き進もうをするため、その場にいた女性職員がデスクを引き、男性職員２名が本人を押さえ床に倒れこませる。本児は手足バタつかせて抵抗し、対応する職員の顔を殴る蹴る、噛みつこうとするなどの行動があり、110番通報した。 ② 12月２日 県障害サービス課・厚木児童相談所・厚木市障害福祉課 ③ 医療機関に現状を伝え今後のことを相談する。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和８年 １月８日	① 七沢療育園（骨折）就床介助時に左足背に出血があるのを支援員が発見し、看護師へ報告。看護師が患部を確認し、腫脹と熱感確認され、冷却処置を実施。翌朝には熱感、内出血ともに収まっていた ② １月８日 県障害サービス課・相模原市障がい福祉課 厚木市障がい福祉課 ③ １月９日 ９時に主治医観察、整形外科の受診依頼。整形外科指示にて10時14分レントゲン実施。13時20分「左第5指中足骨頸部骨折」と診断される。医師より保存的療法の指示あり。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和８年 １月10日	① 七沢学園（所在不明） 11:00頃、海老名へ行ってくると出発したが、19:30頃PASMOを落としたので今日は帰れない、友人宅へ泊まると本人から連絡あり。外泊せずに戻るようにと伝えたが、電話を切られてしまう。その後母親から学園に連絡があり、「子供から連絡があり、新宿に居るようだ」との内容。母からの報告では、本人は今日中には帰らないつもりであるようなので、警察に捜索願を出すことを了解いただいた。21:20に捜索願を厚木警察署に提出した。警察官３名が来園し、ご本人の情報を確認した。23:48本人から電話があり、「警察から電話があった。明日帰ると約束した。」と話す。 ② １月11日 県福祉部障害サービス課・平塚児童相談所・厚木児童相談所 ③ １月11日 12:53、本人より電話があり、13:00のバスで帰園するとのこと。13:35本人帰園。14:35、厚木警察に電話し捜索願を取り下げた。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和８年 １月12日	① 七沢学園（粗暴行為）午後勤務の職員から夜勤職員への引継ぎ中に利用者が勤務室に来たので、引継ぎが終わるまで待って欲しいと声掛けをした。その後、物を投げる音がしたので支援員が向かうとプラスチックのコップを複数個、力任せに壁や人に投げつけ、壁が数か所凹み、コップも割れて破片が床に散乱していた。また食堂にあったほうきを振り回し壁を叩く、職員へ向けて投げることもあった。しばらくそのような状態が続いていたため、他職員に情報を共有した。不穏の状態が10分以上続いたため、警察に連絡することを伝え、21:00 110番通報した。21:15警察官２名が到着、遅れて２名の警察官が到着した。職員から警察官に経過を報告した。警察官が質問したが、本人はソファーに座り、下を向いていた。警察官からは再度暴れることがあるので、夜勤を２名にできないかと打診されたが、急には難しいと伝えた。何かあれば１階や２階の夜勤職員と連携するように、対応が難しければ110番通報しても構わないと言われた。23:15に警察官は戻った。 ② １月12日 県障害サービス課・平塚児童相談所・厚木市障害福祉課 ③ 今後は入院による投薬調整も検討する。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和８年 ２月22日	① 七沢学園（粗暴行為）本児が、勤務室に来て、卒業後に移行予定のグループホームに行きたくないと言っていた。支援員が傾聴し、励ますなどしていたが、会話中に突然イライラし、職員の下駄箱を蹴る、スリッパを勤務室の窓に投げつけるなどが見られた。支援員がユニットに入ると支援員に向かって椅子を投げる、蹴るなどの行為があった。支援員は両手で制止しようとしたが、左眉毛の辺りに頭突きされた。19:15 110番通報をした。 ② ２月22日 県障害サービス課・平塚児童相談所・厚木市障害福祉課 ③ ２月23日 頭突きを受けた支援員は外来受診。打撲と診断。2/24 眼科を受診、眼球に異常無し。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし

令和８年 ３月12日	① 七沢学園（所在不明） 伊勢原支援学校訪問部の在籍児童は、本校にて卒業式の予行練習を行うことになっていた。８:50頃、他児童と共にユニットを出て、児童中央スタッフ前の廊下に集合し、マイクロバスで伊勢原養護学校へ行くことになっていたが、９:10頃乗車の際に本児がいないことに気付いた。 ② ３月12日 県福祉部障害サービス課・平塚児童相談所・厚木児童相談所 ③ 10:35 職員が捜索中に本児を発見。怪我等無し。 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし
令和８年 ３月30日	① 七沢療育園（骨折）看護師が居室訪問。起床介護後、靴をはいていただく際に左足底部の発赤、内出血を発見。安静状態保ち、主治医に報告。 ② ３月30日 県障害サービス課・茅ヶ崎市障害福祉課・厚木市障害福祉課 ③ ３月31日 ９時に整形外科受診。左足中足骨折との診断が出る。原因は不明 ④ なし ⑤ なし ⑥ なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。